

富士見市文化芸術振興委員会第7回会議録

日時	平成26年1月30日（木）18：30～20：45
会場	鶴瀬公民館 第3集会室
出席者 (欠席者)	<p>■委員（順不同・敬称略） 加藤 健司、氣賀澤 明子、小倉 洋一、佐藤 公誠、小塚 茂、 増岡 昭、稲村 松美、野村 東央留、山崎 咲子、吉川 節男、富田 實</p> <p>■傍聴者 1名</p> <p>■事務局 市川地域文化振興課長、中嶋副課長、大下主事補</p> <p>《欠席者》</p> <p>■委員（順不同・敬称略） 秋元 節子、羽石 裕子、吉田 英穂</p>
会議内容	<p><第7回文化芸術振興委員会></p> <p>1 開 会 地域文化振興課 中嶋副課長</p> <p>2 あいさつ 加藤委員長</p> <p>3 議 事</p> <p>（1）文化芸術振興基本計画 事務局案の確認・検討について 事務局より、東京大学大学院小林真理先生のアドバイスを受け、全体を2部構成にし、1部に計画の本文（目標や柱の内容等）、2部は資料編（富士見市の現状等）とし、全体的に読みやすく整理したことを報告し、その後、文化芸術振興基本計画の最終案を基本目標ごとに読み上げ、修正点を説明し、委員に確認をお願いした。</p> <p><u>基本目標1</u> 委 員）「指定管理を活用して」との記述があるが、指定管理は5年毎の見直しなので、計画期間が10年の振興計画にはなじまないのではないか。</p> <p><u>基本目標2</u> 委 員）施策の柱4に、「少子高齢化」、「第2の人生」との表現があるが、行政の計画の中で使用するには、色々と意見がある表現だと思う。検討してはどう</p>

か。

委員)「文化芸術を市民と市民を結びつけるツールとして活用し」という記述があるが、「結びつけるツールとして」の「ツール」という表現は「道具」という風に誤解される。違う表現に検討した方が良い。

施策の柱3だが、キラリ☆ふじみの内容から始まっているが、この柱の内容は公民館・交流センター・資料館・図書館が中心なので、文章の構成の整理が必要である。

委員) 施策の柱1に「生きる原動力になるという側面があります。」との記述があるが、側面という表現は消極的な意味ともとれるので、「原動力になります」と表現した方が良い。

基本目標3

委員) 施策の柱2の展開(取り組みの方向)に、「市内公共施設の予約管理システムの導入」という記述があるが、導入については様々な課題を議論しながらすすめることなので「システム導入の検討」という表現とした方が良い。

委員) 市役所前大型商業施設とキラリ☆ふじみとの事業連携に関しては、方向としては良いと思うが、民間との調整であり未だ確定でもないこともあるので、「検討」という言葉を加えた方が良い。

基本目標4、その他

委員) 市長挨拶文の掲載の仕方については、慣例に従うのが良いと思う。

委員) 文化芸術振興条例の理念や小林先生からレクチャーいただいた計画の目指すものが活かされる計画となるよう望んでいる。

(2) 今後の流れについて

今後の予定について、事務局より説明を行った。

2/4 庁内委員会

2/7 政策会議

3/1 講演会

3/18(火)～4/17(木) パブリックコメント実施

5/中旬 振興委員会開催 計画の最終確認

4 その他

5 閉 会 加藤委員長

第7回富士見市文化芸術振興委員会 次第

日時 平成26年1月30日(木)

18時30分～

場所 鶴瀬公民館第3会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1) 文化芸術振興基本計画 事務局案の確認・検討について

- ・施策の柱について

- ・展開(取り組みの方向性)について

(2) 今後の流れについて

1/30 振興委員会開催

2/4 庁内委員会

2/7 政策会議

3/1 講演会

3/18(火)～4/17(木) パブリックコメント実施

5/ 振興委員会開催 最終確認・報告

4 その他

5 閉 会